

福島正美ニュースレター

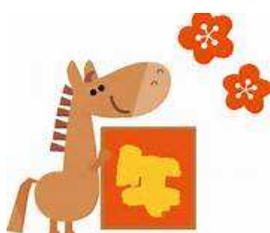
立川市議会議員 福島正美
TEL/FAX 042-522-9971



新時代の2014年が開幕

新年あけましておめでとうございます。

2014年午年がスタートしました。立川のまちも奔馬の勢いで発展し続ける中、少子高齢化による地域福祉の課題は目白押しです。今年も現場の最前線に入って地域の声を吸い上げ、白馬の如く走り抜き、誇りの持てるまち立川の構築に全力投球して参ります。本年も宜しくお願い申し上げます。



12月定例議会報告

平成25年第4回定例議会が開かれました。泉市民体育館並びに立川市駐車場の指定管理者契約や21億円の一般会計補正予算等が議決されました。一般質問は下記の通り行いました。

1. 高齢者が歩いて暮らせる地域づくり
2. 子どもショートステイ
3. さらなる躍進を続ける立川のまちづくりについて

①中央南北線の南進 ②農産物直売所の再出店 ③南口のイメージアップ戦略

健康寿命を延ばす取り組みが進んでいる中、高齢者の方々が、日常的に「歩く」という基本的な健康活動を身に付けてもらうためのしくみづくりに言及しました。

母親の病気や事故、緊急出産入院等で利用できる子どもショートステイ事業について、受け入れ困難な児童を預けられる民間児童施設や養育家庭の拡充を訴えました。

閉鎖が予定されている駅周辺南北の農産物直売所について、有志の農業者と場所の提供を担う商業者とを市が繋げる役割を果たし再出店を実現させること、都市計画道路中央南北線の南進のため、JR青梅線の連続立体交差化を一步でも前進させること、区画整理終了後の道路を活用した文化芸術の舞台づくりを通じて南口のまち並みを変えていく南口のイメージアップ戦略を訴えました。



福島正美ホームページ <http://mf2933.sakura.ne.jp>

フェイスブック <https://www.facebook.com/masami.fukushima.75>

福島正美 12月定例会での一般質問（要旨）

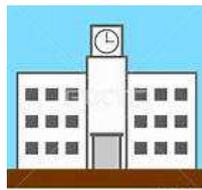
高齢者が歩いて暮らせる地域づくりについて

【質問】健康寿命を延ばそうという取り組みが進んでいる中、最も身近で実行可能な健康行動は「歩く」ということである。歩くことが困難になっている高齢者の方々が日常生活の中で自然と歩かされるようなしくみを作ることが必要ではないか。

【答弁】公共施設等の地域資源を活用した健康づくりのための拠点の整備を検討したい。

【質問】市民全体に呼びかけるのではなく、どうすれば歩けるかということ自治会毎に出し合ってもらえるような、地域での人間関係を通じた働きかけにシフトしていくことが必要ではないか。

【答弁】地域での人のつながりを生かして、歩くことを促していくことを研究する。



子どもショートステイについて

【質問】個々の様々な事情で子どもを預けられないケースの為に、その先で受け入れられる民間施設や養育家庭と協定を結び保護者の不安を取り除くべきではないか。

【答弁】其々の児童に適した組み合わせを丁寧に案内していく。

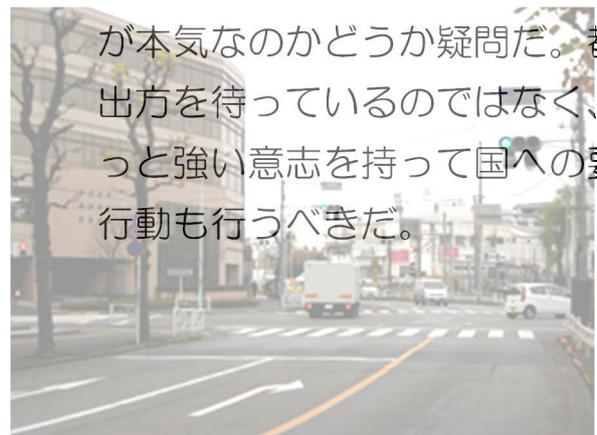


中央南北線の南進

【質問】国の防災基地がありながら、一向に進まない原因は何か。

【答弁】道路と青梅線をどう交差させるかの解決が難しい。

【質問】JRとの話し合いが進まないのではないか。事業主体である東京都が本気なのかどうか疑問だ。都の出方を待っているのではなく、もっと強い意志を持って国への要請行動も行うべきだ。



南口のイメージアップ戦略 について

【質問】南口に定着している負のイメージを払拭させる位の勢いでまちのイメージを変えていかなければならない。南口が元来持つ個店の長をどう生かして賑わいに繋げようとしているのか。

【答弁】ここ数年音楽スタジオやライブ等文化芸術的な集積が出来つつある。本市の文化拠点である市民会館とつないだ文化芸術のイメージ作りも一つの方向である。

【質問】区画整理で生まれた道路の恩恵をまちに返してもらいたい。道路占用許可特例を受けて、道路の一面をストリートミュージックやアートの展示、オープンカフェ等に開放し、文化芸術の舞台作りを行うべきである。今こそ南口のイメージアップを。

農産物直売所の 再出店

【質問】駅周辺の南北の直売所が閉鎖されるが、存続を望む市民の声は大きい。有志の農業者と商業者(商店街)が手を結び、場所を確保して再出店出来るよう、市が両者をつなぐ役割を果たして欲しい。

【答弁】繋ぐ役割については十分認識しているし果たしていきたい。



★南口のイメージアップ戦略★

皆さん南口にはどんなイメージをお持ちでしょうか。

南口は北口の大型百貨店（商業施設）とは土俵が違う単独店（個店）を売り物にした街です。平成12年に作られた「立川商業ビジョン」では「バザールの街」を目指すとされています。しかし区画整理の進展によって道路が整備され、まちは整然となりましたが、市場というようなアーケードや横丁、カフェテラスや歩道から商品に手が触れられるような物販店の賑わいがある訳ではありません。逆に安心して歩けない怖い街という雰囲気が定着してしまっています。これは南口にとって実にもったいないことです。

南口商店街の皆様はこれまでも個店の魅力、オリジナリティーで賑わいを生み出したいというコンセプトで「まちゼミ」を行い、お祭りや踊り、食、音楽といった様々なイベントを行ってきました。これはまさに南口の誇れる資産です。しかし残念ながらそれが一つのまちのカラーにはなっていません。従って私はここで南口に一つのイメージを持たせることが必要であると思っています。南口に定着しているイメージを払拭させる位の勢いでまちのイメージを変えていかなければならないと思います。



そのため何をするべきか。ここにきてようやく終わる区画整理によって生み出された「道路」を最大限活用することが必要です。どうやって活用するのか。それは商店街やまちづくり法人が主体となって、道路等の公共空間を賑わい・交流創出と、文化芸術のための活動の舞台にすることで。



公明党立川市議団 平成26年度予算要望書を提出

公明党立川市議団による平成26年度予算要望書を清水市長に提出しました。

《主な項目》

- ◆介護施設（グループホーム、小規模多機能型施設）の整備・増床
- ◆緊急通報システム設置の対象者拡大
- ◆健康遊具の公園への設置
- ◆小児救急医療体制の創設
- ◆防災士資格取得のための補助金の拡充
- ◆学供施設や学習館、総合福祉センターへの最低限の防災備蓄品の配置
- ◆小中学校の特別教室への空調設備の設置
- ◆都市計画道路「立3.1.34号線」（中央南北線）の南進計画を前進させること
- ◆立川駅周辺の歩道へのベンチの設置
- ◆交通不便地域へのデマンドタクシーの導入
- ◆新たな農産物直売所を立川駅の南北に出店する可能性について関係諸団体と協議すること



本年公明党は 結党50周年 を迎えます！



昭和39年11月17日、我々公明党は「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」との立党の精神を掲げ結成されました。当時は東京オリンピックの開催や東海道新幹線が開通するという戦後の経済成長の真っ只中ではありましたが、自民・社会両党の55年体制の中で財界対労組という不毛な対立が続き、政治が大衆からかけ離れている時代でした。そのような中、生活現場に光を当て、政治を庶民大衆の手に取り戻すという願いを持って公明党は結成されました。これからも公明党は大衆とともにとの不変の精神のもと、新たな衆望を担って立つ政党として前進して参ります。



市民相談いつでも お気軽にご相談下さい

福島正美まで



- 第4次基本構想審査特別委員会 副委員長
- 総務委員会委員
- 議会改革特別委員会委員

電話：042-522-9971

携帯：090-6545-2425

E-Mail:mf2933@yahoo.co.jp

URL:http://mf2933.sakura.ne.jp

